

# 2022年1月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年3月4日

上場会社名 J-ピープル

上場取引所 東

コード番号 7865 URL <https://www.people-kk.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役兼代表執行役 (氏名) 桐渕 真人

問合せ先責任者 (役職名) IR担当 (氏名) 飛田 留美子

TEL 03-3862-2768

定時株主総会開催予定日 2022年4月13日

配当支払開始予定日 2022年4月14日

有価証券報告書提出予定日 2022年4月14日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

## 1. 2022年1月期の業績(2021年1月21日～2022年1月20日)

### (1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年1月期	5,481	22.4	510	4.1	496	4.3	343	4.4
2021年1月期	4,478	20.1	490	59.5	475	67.3	329	49.4

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2022年1月期	78.52	—	15.1	18.2	9.3
2021年1月期	75.23	—	15.3	18.6	10.9

(参考) 持分法投資損益 2022年1月期 一百万円 2021年1月期 一百万円

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年1月期	2,785	2,311	83.0	528.40
2021年1月期	2,674	2,244	83.9	513.06

(参考) 自己資本 2022年1月期 2,311百万円 2021年1月期 2,244百万円

### (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年1月期	265	△117	△263	1,305
2021年1月期	—	—	—	—

(注) 当社は、2021年1月期につきましては連結財務諸表を開示しておりましたが、2022年1月第1四半期より非連結での業績を開示しております。2021年1月期の経営成績及び財政状態につきましては個別財務諸表を開示しておりますが、キャッシュ・フローの状況につきましては個別財務諸表を開示していないため、前期の記載はしていません。

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産配当 率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2021年1月期	—	0.00	—	60.00	60.00	262	79.8	12.2
2022年1月期	—	0.00	—	—	—	—	—	—
2023年1月期(予想)	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 2022年1月期の期末配当額につきましては、1株当たり58.00円～63.00円にて予想開示をしております。最終決定につきましては2022年3月14日開催予定の決算取締役会議における決議に基づき、改めて決議後発表いたします。

(注) 2. 2023年1月期第2四半期末配当の有無につきましては7月中旬に、また、2023年1月期期末配当につきましては、通期業績見通しと連動し、年末商戦状況を見極めた上で勘案し、発表させていただきます。

## 3. 2023年1月期の業績予想(2022年1月21日～2023年1月20日)

2023年1月期第1四半期業績予想 (2022年1月21日～2022年4月20日)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第1四半期	1,294	71.8	64	96.8	64	116.4	44	117.2	10.11

(注) 当社の通期業績は、年末商戦期間(10～12月)の業績に大きく左右されます。本来通期業績予想を掲げるべきではありますが、このような玩具市場の特性に鑑み、直近で見通せる次期四半期の予想を掲げさせていただきます。

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年1月期	4,437,500 株	2021年1月期	4,437,500 株
② 期末自己株式数	2022年1月期	63,279 株	2021年1月期	63,279 株
③ 期中平均株式数	2022年1月期	4,374,221 株	2021年1月期	4,374,221 株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(業績全般の概況)	2
(カテゴリー別の概況)	2
(当期国内新発売・リニューアル商品)	3
(2) 当期の財政状態の概況	4
(資産負債及び純資産の概況)	4
(たな卸資産の状)	4
(設備投資の状況)	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	5
(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当について	5
(利益配分に関する基本方針)	5
(当期2022年1月期の期末配当について)	5
(次期の配当について)	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 財務諸表及び主な注記	6
(1) 貸借対照表	6
(2) 損益計算書	8
(3) 株主資本等変動計算書	9
(4) キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(持分法損益等)	12
(セグメント情報)	12
(1株当たり情報)	12
(重要な後発事象)	12

## 1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況  
(業績全般の概況)

	当事業年度	
	金額	前期比
売上高	5,481百万円	22.4%増
営業利益	510百万円	4.1%増
経常利益	496百万円	4.3%増
当期純利益	343百万円	4.4%増

当事業年度における経済環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の影響により、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

当社をとりまく環境においては、外出自粛や店舗休業等の影響を大きく受けた前期と比較して、当期は僅かながら商業施設等への出足は回復傾向にありましたが、未だ感染防止対策に伴う販促イベント等の中止や制限が余儀なくされる環境となりました。このような中、当社はデジタルシフトを進め、テレワークを中心とした働き方への改革を行いコロナ禍においても営業活動への支障が最小限になるよう努めてまいりました。

海外販売においては、主力の米国向け知育玩具が既存品・新商品ともに量販店での取扱いが増え、需要を大きく延ばしました。コロナ禍の影響で世界的な輸送船確保が困難な状況となり、出荷が不安定となる悪影響を受けつつも、結果としては売上を大きく伸ばしました。

国内販売においても、前期コロナ特需のあった「遊具・乗り物カテゴリ」では売上が萎んだ一方で、「乳児・知育玩具カテゴリ」の定番シリーズを主にお部屋遊びの玩具類が好調に推移した結果、売上を伸ばしました。

結果、合わせまして、当2022年1月期の売上高は、54億81百万円の前期比22.4%増となりました。

売上高を伸ばした一方、収益性において課題を残しました。製造地での材料や人件費の高騰に伴い仕入コストが上昇した一方、販売先からは値下げ要求が強まる傾向にありました。また海外販売ははじめ高原価率のアイテムが売上構成を大きく占めたことで、売上総利益段階では前期比12.6%増に留まりました。

費用面では、新規企画の研究開発や従業員の自律に向けた教育セミナー等に一定の費用を投じながらも、ほぼ前期並みに収まりました。

これらの結果、営業利益は5億10百万円の前期比4.1%増、経常利益は4億96百万円の前期比4.3%増、当期純利益は3億43百万円の前期比4.4%増となりました。

## (カテゴリ別の概況)

## ◆玩具市場へのコロナ禍の影響

コロナ禍は新奇性の高い新商品よりもロングセラーの定番品の需要が高まる影響を与えました。消費者は店頭で長時間商品を探したり、サンプル品で子供を遊ばせるよりも、すでに知っている定番品をECで購入したり、店頭を訪れても事前に狙いを定めて短時間で買い物をする傾向があったため、と見ています。

## ◆乳児・知育玩具

ロングセラーの多い当社の商品は当乳児・知育玩具カテゴリを中心に店頭にて積極的に展開をされました。大きく牽引したのが、構成玩具「ピタゴラスシリーズ」です。中でも当期新商品『ピタゴラスBASIC ボールコースター』はシリーズを牽引するヒット商品となりました。その他「やりたい放題ビッグ版」や「知脳リモコン」も大きく貢献しました。

## ◆女兒玩具

「ねじハピシリーズ」がSDGsナンバー5「ジェンダー平等の実現」という観点からメディアにも注目商品として取り上げられました。中でも人気キャラクターを採用した「ねじハピすみっこぐらしメガDIYセット」などが、発売後すぐに完売するなど好調に推移いたしました。

一方厳しい状況が続く「ぼぼちゃんシリーズ」は、当期は誕生25周年のアニバーサリーイヤーとして、ぼぼちゃんの魅力を伝えるTVCMなど積極的なプロモーションを行うなど、引き続き訴求してまいります。

## ◆遊具・乗り物

昨年のコロナ禍での需要過熱に対して、前期比2割減となりました。足けりバイク・キックスケーター・自転車と1台で3役可能な新製品『キックル』を発売するなど、厳しい状況の中でも新しいチャレンジは続けてまいります。

## ◆その他、家具・育児他

SNSを中心としたプロモーションで、子育て世代にダイレクトな情報発信をすることで「ラッコハグ」などを中心に、妊娠期の出産準備アイテムにご指名いただくことが増え、年間を通して順調に推移いたしました。

## ◆海外販売

当期、年間を通して米国向け販売において外航コンテナ不足の影響による出荷計画のずれが発生してはいましたが、できる限りの手段を講じてコンテナを確保し、この状況下でも前期比51.6%増の売上となりました。店頭での販売では入荷次第、順調に商品が売れていく状況は続いておりますので、欠品でのチャンスロスを起こさぬよう、引続きコンテナ確保の対策は続けてまいります。アジア向け(台湾・中国・韓国)の販売では、日本でも人気の「やりたい放題ビッグ版」や「知脳リモコン」を、各国の言語バージョンにローカライズした商品が売上に貢献しております。

(カテゴリ別売上高)

(単位：千円)

	2021年1月期 (自2020年1月21日 至2021年1月20日)	2022年1月期 (自2021年1月21日 至2022年1月20日)	前期比 (%)
乳児・知育玩具	1,382,996	1,670,170	120.8
女児玩具	433,430	403,715	93.1
遊具・乗り物	869,742	726,285	83.5
その他(家具・育児他)	150,783	192,626	127.8
海外販売	1,641,174	2,488,513	151.6
合計	4,478,125	5,481,309	122.4

(注) 2022年1月期第1四半期より個別業績を表示しております。このため前期についても個別業績(参考値)を記載しております。

(当期国内新発売・リニューアル商品)

商品カテゴリー名	商品名	標準小売価格 (消費税別)
乳児・知育玩具	「握りたくなる魔法のわっか」(シロにゃん・クロにゃん)	各¥1,320
	ノンキアラ良品「ウレタンマットの噛み心地 1人でマツリます」	¥715
	ノンキアラ良品「本物そっくりのこだわり設計 ベビ推しスイッチ」	¥770
	ピタゴラスシリーズ「ピタゴラスBASIC 知育いっぱいボールコースター」	¥3,278
	同 「ピタゴラスBASIC 知育いっぱいボールコースターDX」	¥16,500
	同 「ピタゴラスBASIC 知育いっぱい!ミニどうぶつえん」3種	各¥2,420
	同 「ピタゴラスBASIC 知育いっぱい!はたらくくるま」	¥5,060
	「いつかは立ちで…遊びたイッス」	¥7,128
	お米シリーズ「お米のなめなめスプーン」	¥1,650
	同 「お米のはじめての食育おもちゃセットいろいろ」	¥4,290
同 「お米のつみきはじめてセット白米色」	¥9,900	
女児玩具	ねじハピシリーズ「ねじハピメガDIYセット」	¥6,050
	同 「DIYコーデパーツ」7種	¥660~¥1,320
	お人形「マシュマロぼぼちゃん ひつじさんスタイつき」	¥3,608
	お人形セット「ぼぼちゃん×SNOOPY」	¥6,380
	「ぼぼちゃんのおしゃべりトイレ」	¥2,530
	年末限定「ねじハピ すみっこぐらし メガDIYセット」	¥7,150
	「ねじハピ DIYコーデパーツ」(ネオンピンク他計6色)	各¥660
	年末限定「マシュマロぼぼちゃんお世話デビューセット」	¥6,600
年末限定「ぼぼちゃんデビューパーフェクトセット」	¥11,000	
遊具・乗り物	「キックル」2色(フレンチブルー・メタリックレッド)	各オープン価格
	数量限定「ケッターサイクル 14インチ コスモスピンク」	オープン価格
	数量限定「ケッターサイクル 16インチ サファイアブルー」	オープン価格
	「指先から全身まで知育アスレチック」	オープン価格
	「1歳からの室内知育テント いたずらやりたい放題ハウス」	オープン価格
その他 (育児・家具他)	「テディハグ プティ」(オフホワイト、アイボリー)	各オープン価格
	「テディハグ グランスイング+」(オフホワイト、アイボリー)	各オープン価格
	「ラッコハグ プラス リラクシング ラベンダー」	¥4,818

(2) 当期の財政状態の概況

(資産負債及び純資産の概況)

資産の部では、当事業年度末の総資産は、前事業年度末より1億11百万円増の27億85百万円となりました。

流動資産は24億22百万円で、その主な内訳は現金及び預金13億5百万円、売掛金4億39百万円、商品・原材料の棚卸資産4億4百万円等です。固定資産は3億63百万円で、主な内訳は金型等の有形固定資産1億5百万円、社内利用ソフトウェア等の無形固定資産33百万円、関係会社株式・保険積立金等の投資その他の資産2億25百万円です。

負債の部では、流動負債は4億74百万円で、主な内訳は次期販売用の商品仕入に伴う買掛金が1億円、未払法人税等1億54百万円です。

当事業年度末の純資産は、配当金支払の一方当期純利益の計上により、純資産合計は前事業年度末より67百万円増の23億11百万円となりました。

以上の結果、当事業年度末における1株当たり純資産は528円40銭、自己資本比率は83.0%となりました。

(ご参考：過去5年の資産負債の推移)

	2018年1月期	2019年1月期	2020年1月期	2021年1月期	2022年1月期
総資産 (千円)	2,437,162	2,451,402	2,440,762	2,673,833	2,785,147
純資産 (千円)	2,064,449	2,077,828	2,046,186	2,244,239	2,311,346
自己資本比率	84.7%	84.8%	83.8%	83.9%	83.0%

注) 2018年1月期より2021年1月期までは連結財務諸表を作成していたため連結業績にて示しており、2022年1月期より個別財務諸表にて業績開示していることから、2022年1月期の数値は個別業績を示しております。

(たな卸資産の状況)

	2018年1月期	2019年1月期	2020年1月期	2021年1月期	2022年1月期
評価減金額 (千円)	27,358	37,796	19,274	42,102	21,172
売上比率	0.6%	0.9%	0.5%	0.9%	0.4%

注) 2018年1月期より2021年1月期までは連結業績を、2022年1月期の数値は個別業績を示しております。

一般的棚卸資産管理では売上が下がると在庫増となります。当社は売上が下がると即減産する体制となっており、向こう3ヶ月の需要予測を毎月精密に行い過剰在庫とならない調整を行っております。しかし、毎期末では当期販売力が伴わなかった新製品等も含め商品力の衰えそうなものを有税で償却し、健全な在庫に評価しなおし翌期に負の資産を残さないようにしております。当期では21,172千円の評価減額を計上しましたが、売上対比では0.4%と低い水準に収まりました。

(設備投資の状況)

当期の設備投資金額は、81百万円で、その内訳は次の通りとなっております。

金型・製版 78百万円 工具器具備品 3百万円

設備の除却は、金型・製版および工具器具備品について61百万円(取得価額)行っております。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度末における現金及び現金同等物は、期首より1億13百万円減少の13億5百万円となりました。主な要因は次の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フローについて)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前当期純利益の計上の他、次期発売に備えた商品や原材料買付のための前渡金や仕入債務の増加、法人税等の支払等により、2億65百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フローについて)

投資活動によるキャッシュ・フローは、金型等固定資産、および社内利用のソフトウェア等、無形固定資産の取得等により、1億17百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フローについて)

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金支払により2億63百万円の支出となりました。

(4) 今後の見通し

(次期2023年1月期 第1四半期会計期間の業績見通し)

当社は2022年は玩具事業創業40周年の区切りを迎えます。また、新経営体制も3期目となり、いよいよ次期第46期(2022年1月21日～2023年1月20日)は、これからの中長期を見据えて新たな課題に向き合い、企業としての「存在価値」を目標として掲げ、歩み出す初年度となることをお知らせいたします。

これらの詳細につきましては、整え次第お知らせし、また四半期ごとにその進捗をご報告していく予定であります。

次期四半期(2022年1月21日～2022年4月20日)におきましては、国内販売では当期(第45期)年末年始商戦後の流通在庫滞留状況など、期をまたぐ影響により売上が左右される面もあります。また、一部商品は長年据え置いていた販売価格を見直し、値上げを実施いたします。それにより一時的には売上減少が予想されます。さらに、新型コロナウイルスによる影響も当面続くものと見ております。一方、海外販売は、米国での需要に沿って期初からまとまった出荷をしていく計画です。

このため、現時点において次期四半期の業績予想につきましては、売上高12億94百万円、営業利益64百万円、経常利益64百万円、四半期純利益44百万円を予想しております。

(注) 上記業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当について

(利益配分に関する基本方針)

既製品の持続性が弱く、かつ、新製品の成否が予測し難い業種であり、それゆえに「持続性」を最重視した経営に徹しています。しかし、消費者ニーズが流動的なのは避けがたく、株式上場以来、当期の業績を基準とした配当政策を方針としております。

配当額の具体案は配当可能な剰余金の0から100%までの範囲で次の要素を勘案の上、決定しています。

- 1) 剰余金の額
- 2) 為替、有価証券の評価損益
- 3) 適切な信用力を維持できる財務内容の確保
- 4) 資金需要の状況
- 5) より高い株主利益の達成が可能な投資案件の有無
- 6) 自己株式の買入れの有無とその額

(当期2022年1期の期末配当について)

上記方針を踏まえて、当期期末配当額は2022年1月11日付「2022年1月期の期末配当予想について」にて、1株当たり58.00円～63.00円を実施予定であることをお知らせしております。実施額の最終決定につきましては、2022年3月14日開催予定の当社決算取締役会議における決議に基づき、改めて決議後ご報告させていただきます。

(次期の配当について)

次期第46期の配当につきましては、引き続き上記方針を継続し、通期の業績を基準として勘案してまいります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、財務諸表の期間比較可能性等を考慮し、当面は、日本基準で財務諸表を作成する方針です。なお、IFRSの適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

## 3. 財務諸表及び主な注記

## (1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年1月20日)	当事業年度 (2022年1月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,418,097	1,304,925
受取手形	42,739	38,557
売掛金	434,591	438,937
商品	401,460	397,436
原材料	1,298	6,073
前渡金	26,854	160,355
前払費用	8,696	6,246
未収消費税等	-	1,122
その他	8,868	69,651
貸倒引当金	△1,693	△1,373
流動資産合計	2,340,910	2,421,930
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,290	2,290
減価償却累計額	△1,976	△2,054
建物(純額)	314	236
車両運搬具	2,272	-
減価償却累計額	△2,272	-
車両運搬具(純額)	0	-
工具、器具及び備品	754,779	774,813
減価償却累計額	△739,969	△737,208
工具、器具及び備品(純額)	14,811	37,605
建設仮勘定	33,530	67,227
有形固定資産合計	48,655	105,068
無形固定資産		
電話加入権	698	698
ソフトウェア	36,605	32,116
無形固定資産合計	37,304	32,815
投資その他の資産		
投資有価証券	28	28
関係会社株式	145,766	125,705
繰延税金資産	21,346	19,948
敷金及び保証金	27,209	27,039
保険積立金	52,615	52,615
投資その他の資産合計	246,964	225,335
固定資産合計	332,923	363,218
資産合計	2,673,833	2,785,147

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年 1月20日)	当事業年度 (2022年 1月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	40,620	-
買掛金	103,690	100,094
未払金	19,962	32,212
未払費用	81,909	86,572
未払法人税等	125,210	154,316
未払消費税等	40,913	-
前受金	13,416	96,172
その他	3,873	4,437
流動負債合計	429,594	473,802
負債合計	429,594	473,802
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	238,800	238,800
資本剰余金		
資本準備金	162,700	162,700
その他資本剰余金	5	5
資本剰余金合計	162,705	162,705
利益剰余金		
利益準備金	59,700	59,700
その他利益剰余金		
別途積立金	1,000,000	1,000,000
繰越利益剰余金	723,405	804,430
利益剰余金合計	1,783,105	1,864,130
自己株式	△34,267	△34,267
株主資本合計	2,150,343	2,231,369
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	93,896	79,977
評価・換算差額等合計	93,896	79,977
純資産合計	2,244,239	2,311,346
負債純資産合計	2,673,833	2,785,147

## (2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年1月21日 至 2021年1月20日)	当事業年度 (自 2021年1月21日 至 2022年1月20日)
売上高	4,478,125	5,481,309
売上原価		
商品期首たな卸高	401,515	402,758
当期商品仕入高	2,779,713	3,588,613
他勘定受入高	66,584	63,574
合計	3,247,812	4,054,944
他勘定振替高	3,720	13,185
商品期末たな卸高	402,758	403,509
売上原価合計	2,841,333	3,638,250
売上総利益	1,636,792	1,843,059
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	211,514	225,984
販売促進費	76,359	107,400
運賃	161,166	189,243
役員報酬	75,611	69,800
給料及び手当	132,327	149,188
従業員賞与	24,399	24,717
法定福利費	30,845	32,581
福利厚生費	7,672	5,320
退職給付費用	15,146	16,002
減価償却費	7,235	12,216
賃借料	25,275	23,833
支払手数料	103,135	122,951
研究開発費	183,617	227,361
貸倒引当金繰入額	1,057	△320
その他	91,087	126,418
販売費及び一般管理費合計	1,146,445	1,332,694
営業利益	490,347	510,365
営業外収益		
受取利息	264	11
受取配当金	2,075	1,794
その他	250	327
営業外収益合計	2,589	2,133
営業外費用		
為替差損	17,343	16,802
貸倒引当金繰入額	477	-
その他	-	0
営業外費用合計	17,820	16,802
経常利益	475,116	495,696
税引前当期純利益	475,116	495,696
法人税、住民税及び事業税	157,473	144,676
法人税等調整額	△11,451	7,541
法人税等合計	146,022	152,217
当期純利益	329,094	343,479

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2020年 1月 21日 至 2021年 1月 20日)

(単位：千円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計		
						別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	238,800	162,700	5	162,705	59,700	1,000,000	560,531	1,620,231	△34,267	1,987,470
当期変動額										
剰余金の配当							△166,220	△166,220		△166,220
当期純利益							329,094	329,094		329,094
自己株式の取得										-
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	162,873	162,873	-	162,873
当期末残高	238,800	162,700	5	162,705	59,700	1,000,000	723,405	1,783,105	△34,267	2,150,343

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額 金	評価・換 算 差額等合 計	
当期首残高	62,801	62,801	2,050,270
当期変動額			
剰余金の配当			△166,220
当期純利益			329,094
自己株式の取得			-
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)	31,095	31,095	31,095
当期変動額合計	31,095	31,095	193,969
当期末残高	93,896	93,896	2,244,239

当事業年度(自 2021年 1月 21日 至 2022年 1月 20日)

(単位：千円)

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計		
						別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	238,800	162,700	5	162,705	59,700	1,000,000	723,405	1,783,105	△34,267	2,150,343
当期変動額										
剰余金の配当							△262,453	△262,453		△262,453
当期純利益							343,479	343,479		343,479
自己株式の取得										-
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	81,026	81,026	-	81,026
当期末残高	238,800	162,700	5	162,705	59,700	1,000,000	804,430	1,864,130	△34,267	2,231,369

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額 金	評価・換 算 差額等合 計	
当期首残高	93,896	93,896	2,244,239
当期変動額			
剰余金の配当			△262,453
当期純利益			343,479
自己株式の取得			-
株主資本以外の 項目の当期変動額 (純額)	△13,919	△13,919	△13,919
当期変動額合計	△13,919	△13,919	67,107
当期末残高	79,977	79,977	2,311,346

## (4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当事業年度 (自 2021年1月21日 至 2022年1月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前当期純利益	495,696
減価償却費	66,483
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△320
受取利息及び受取配当金	△1,805
為替差損益 (△は益)	△1,294
有形固定資産除却損	0
売上債権の増減額 (△は増加)	△165
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△751
前渡金の増減額 (△は増加)	△133,501
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△1,122
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△40,913
仕入債務の増減額 (△は減少)	△44,217
前受金の増減額 (△は減少)	82,756
その他	△40,264
小計	380,584
利息及び配当金の受取額	1,805
法人税等の支払額	△117,788
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>264,601</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△115,011
無形固定資産の取得による支出	△1,576
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△116,586</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
配当金の支払額	△262,480
その他	△51
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△262,531</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,294
<b>現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)</b>	<b>△113,223</b>
現金及び現金同等物の期首残高	1,417,853
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>1,304,630</b>

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

当社は関連会社を有していないため、該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社は、玩具及び自転車等乗り物類の企画・販売を事業とする単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

項目	前年度事業 (自2020年1月21日 至2021年1月20日)	当事業年度 (自2021年1月21日 至2022年1月20日)
1株当たり純資産額	513.06円	528.40円
1株当たり当期純利益	75.23円	78.52円

(注)1. 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前年度事業 (自2020年1月21日 至2021年1月20日)	当事業年度 (自2021年1月21日 至2022年1月20日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益金額(千円)	329,094	343,479
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	329,094	343,479
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,374	4,374
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。